

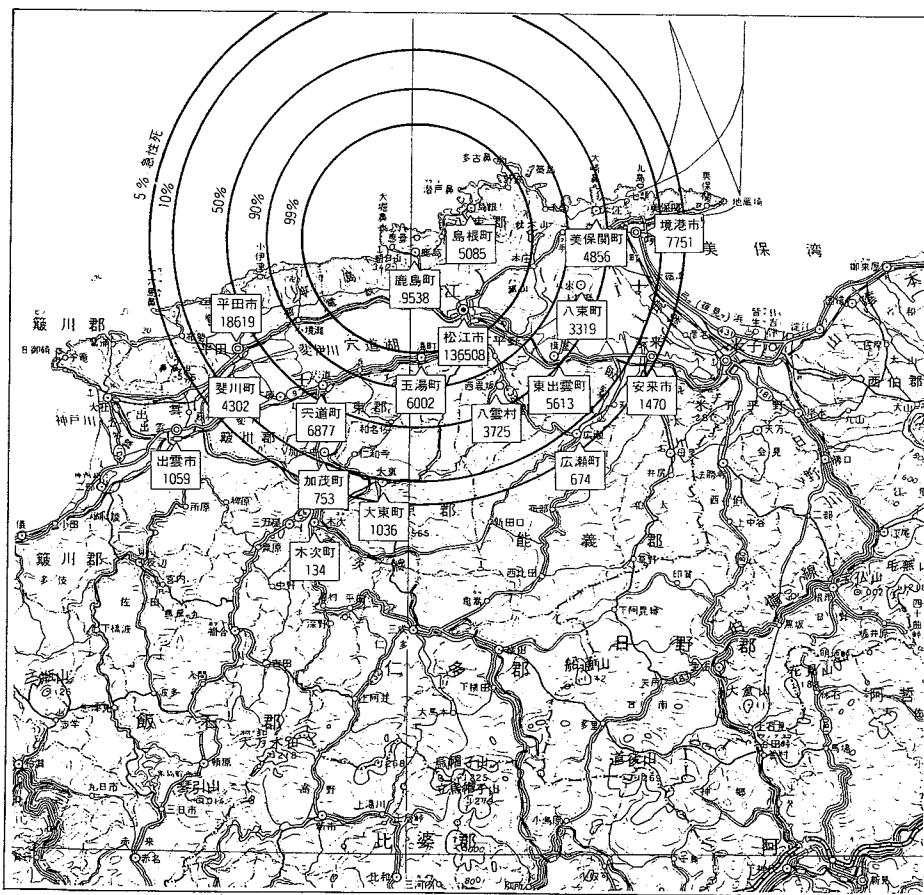
島根2号炉

急性死13万人以上——松江が死の街に！

島根県、松江市の北方一〇キロ足らずのところ、島根半島の西側の海岸に中国電力の原発がある。1号炉四六万キロワット、2号炉八二万キロワットの二基である。ここでは出力の大きい方の2号炉の事故を考える。

①を見てすぐ気がつくことは、県庁所在地の松江市が至近距離にある点である。ここでは原発立地についての「僻地の論理」が無視されているのであろうか。そうではない。中国電力の最大のお得意は、南の瀬戸内沿岸に集中しているのであって、そういう意味で「僻地の論理」はやはり貫徹されているのである。ただ、この地以上に適当な「僻地」がないだけなのだろう。急性死者の分布は次のようになっている。

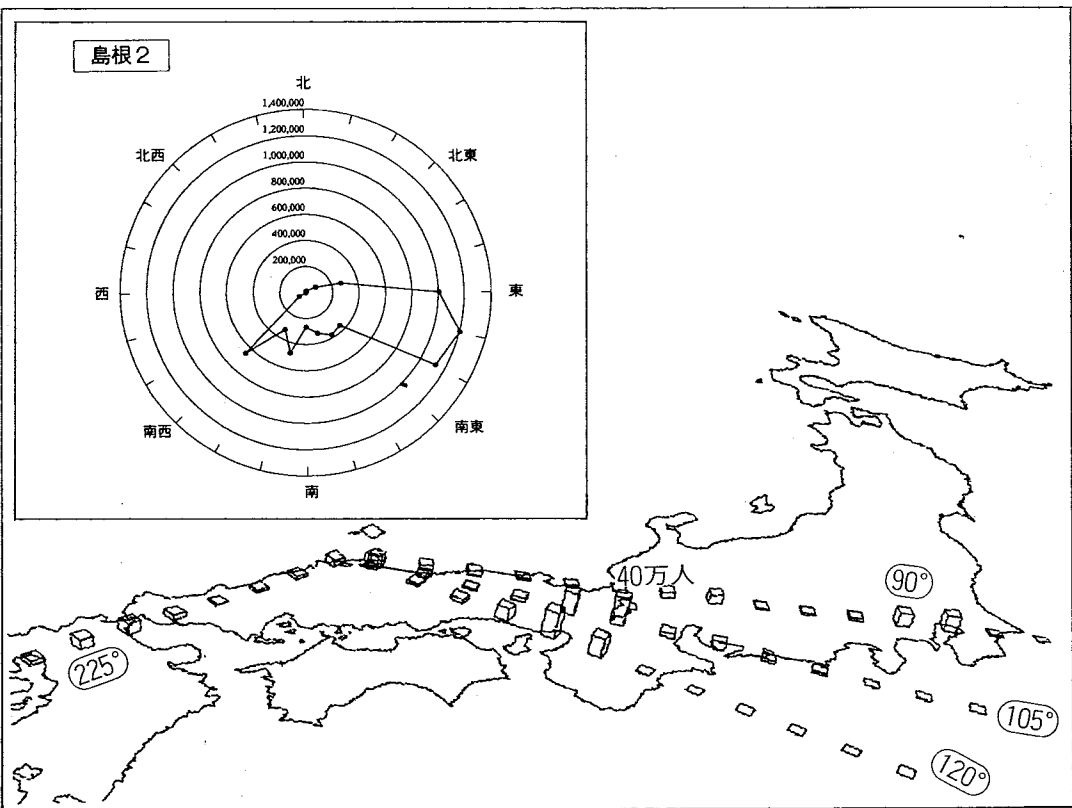
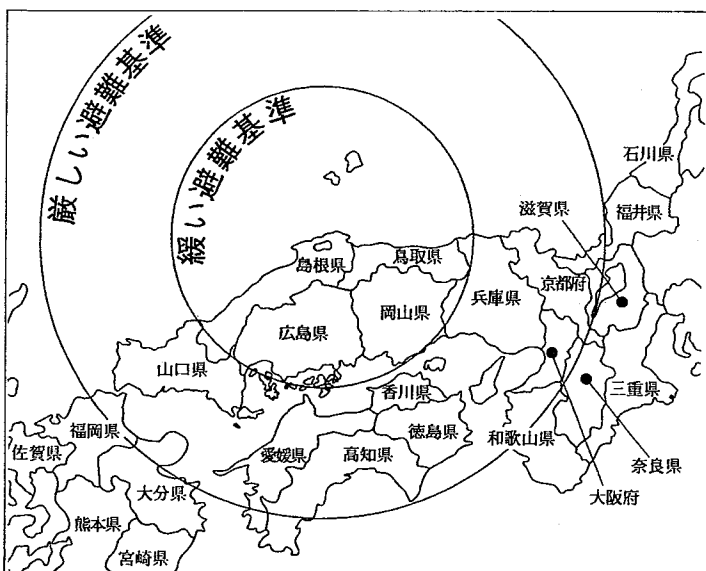
急性死の割合で言えば、島根町が一〇〇%、美保関町が五八%、八束町が七〇%、東出雲町が五一%、松江市が一〇〇%、八雲村が六六%、鹿島町が一〇〇%、玉湯町が九七%、宍道町が六九%、斐川町が一八%、平田市が三六%である。特に、松江市の急性死一三万六〇〇〇人は群を抜いている。



図①

ガン死の分布は②に示してある。レイダーチャートを見ると、九〇度から一二〇度にかけて多数のガン死者が出るのがわかる。これらはそれぞれ、首都圏、名古屋、近畿で主として発生するものである。避難基準の領域を示した③を見ると、厳しい基準を採用すれば、中国地方と四国の全域、それに近畿が含まれることがわかる。

図③



図②